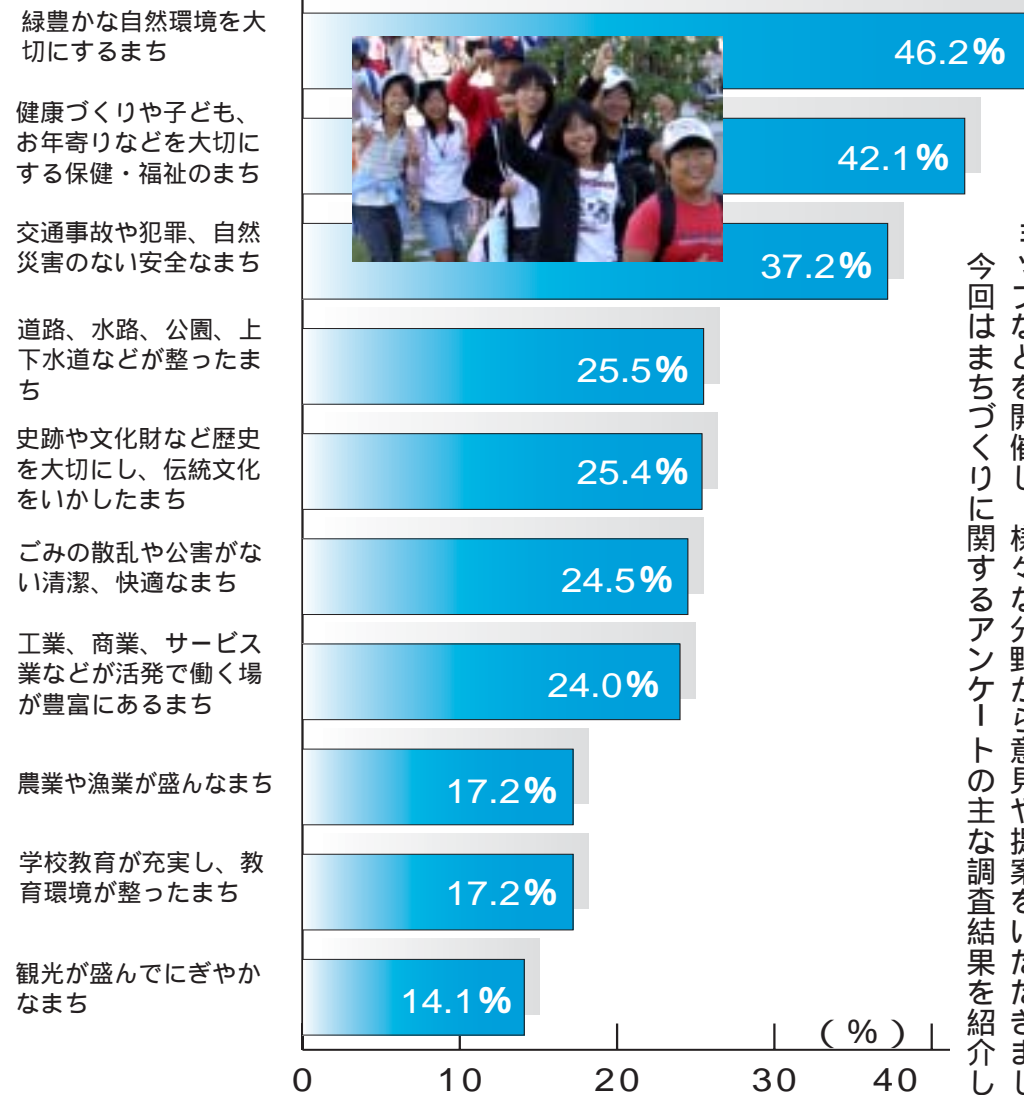


# 自然、健康・福祉、安全がキーワード

市では、旧1市2町の合併に伴う新たなまちづくりの指針となる「第1次総合計画」の策定を進めています。これまで市民アンケート調査や各種団体、NPO法人などの意見交換、さらにはまちづくりワークショップなどを開催し、様々な分野から意見や提案をいただきました。今回はまちづくりに関するアンケートの主な調査結果を紹介いたします。

## 合併後の柳川市に求める将来像は？

→ 新市の将来像は「自然」「健康・福祉」「安全」です



年代別の特徴として、30代では「交通事故や犯罪、自然災害のない安全なまち」が最も多くなっているのが目立ちます。また、60代以上では「健康づくりや子ども、お年寄りなどを大切にする保健・福祉のまち」が最も多く、30代と40代の子育て世代では「学校教育が充実し、教育環境が整ったまち」がほかの年代よりかなり高くなっています。

## 新市建設計画の基本方針で要望の高い「安全・安心、生活環境」

旧1市2町の合併に際して策定した「新市建設計画」は、合併後10年間の新市のまちづくりの羅針盤となるもので、「第1次総合計画」はこの考え方を基本にするものです。新市建設計画の将来像は「生きがいと活力に満ち、自然と共生する住みよいまち」としています。

市民アンケートでは、新市建設計画の基本方針のうち過半数(53・3%)の人が「安全で安心、うるおいのある生活環境づくり(生活環境対策)」を支持しています。次に、「やさしさと思いやりのある福祉・健康づくり(福祉・保健・医療対策)」(39・7%)、「豊かな風土と調和したやすらぎに満ちた都市基盤づくり(都市基盤整備)」(35・3%)、「地域特性を生かした活力ある産業づくり(産業振興対策)」(35・1%)が続いています。



総合計画審議会では、まちづくりの資源となる場所を視察(11月10日、沖端)

## 学生にとっての暮らしやすさ

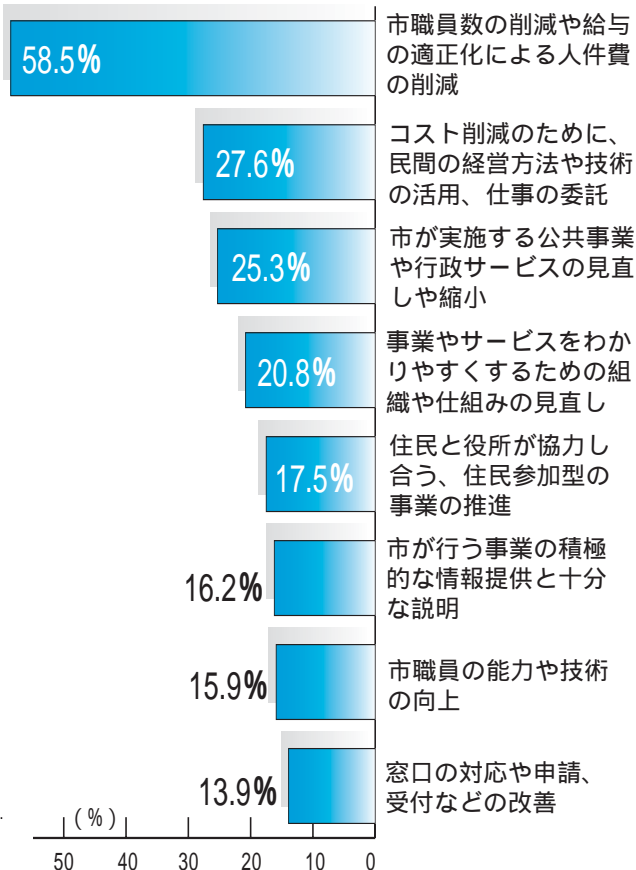
地域の暮らしやすさについて、中学生のプラス評価は「祭りなどの伝統行事が活発である」、「学校や図書館などの教育・文化施設がよく整備されている」で、マイナス評価は「家庭の雑排水の処理」、「ごみ処理施設やリサイクルシステムの整備」となっています。また、専修・専門学校生のプラス評価は「祭りなどの伝統行事が活発である」、「自然環境や田園景観がよく保全されている」で、マイナス評価は「娯楽の場」、「交通弱者である高齢者や子どもの安全」や「雇用の場」となっています。

## 総合計画の基本構想策定中

計画は現在、有識者や団体の代表者、公募委員など市長から委嘱を受けた31人で構成する「柳川市総合計画審議会」で検討されています。

## 行政効率化、財政健全化に重要なことは？

→ 人件費削減が一番です



## 審議会は原則公開

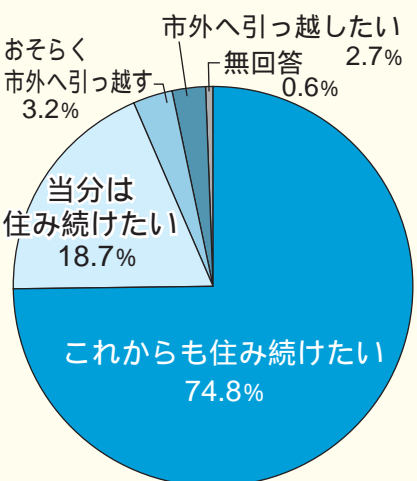
総合計画審議会は、どなたでも傍聴できます。次回の会議は、平成18年1月12日(木)午前10時から、会場は柳川庁舎4階委員会室です。

## 審議会記録は市HPに掲載

総合計画審議会に使用した資料や議事(要点筆記)は、ホームページに掲載しています。市民アンケート調査結果報告書やまちづくりワークショップの提言書も掲載しています。アドレスは、<http://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/> 問い合わせ、「意見は総務部企画課 企画係(内線344、345)までどうぞ。

## 柳川市への定住意向は？

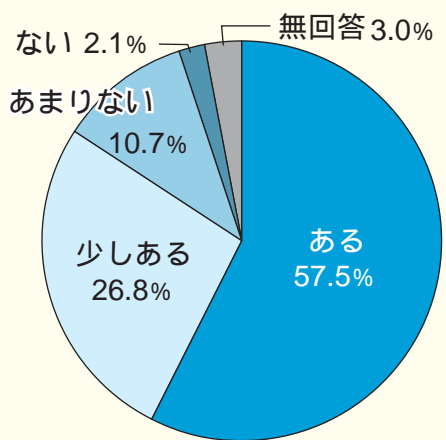
→ 90%以上が「住み続けたい」



住み続けたい主な理由は「家族や家屋・土地があるから」。一方、引っ越したい理由は「交通や買い物などが不便」、「好きな仕事につけない」となっています。

## 柳川市に対する愛着度は？

→ 80%以上が愛着をもつ



男性に愛着を感じていると回答した人が多く、30代が最も低くなっているものの、40代からは年代とともに愛着度は上昇しています。また、居住歴が長い人ほど愛着度は上昇しています。